

## 事業の背景・目的

大型ゲンゴロウ類の一種フチトリゲンゴロウ、ならびにクワガタムシ科の一群であるマルバネクワガタ類は、日本ではともに南西諸島に分布する。フチトリゲンゴロウとマルバネクワガタ類の1種2亜種（計3タクサ）は、生息地及び個体数の減少が著しく、国内希少野生動植物種に指定されている。

このため、上記の希少種を生息域外保全の目的で、伊丹市昆虫館において飼育下繁殖技術の確立を試みるとともに科学的知見を集積する。さらに、野生復帰を実施する際には即応できるように準備を整える。



## 事業の概要

### \* 生息域外保全事業

目的：フチトリゲンゴロウ及びマルバネクワガタ類について、飼育（生息域外保全）個体群を維持することにより種（系統）の保存を行った。



### 成果

#### 順調に累代飼育継続中、種の保存に貢献

フチトリゲンゴロウは94個体の新成虫を羽化させることができた。また、他施設へ12個体を移動させ、他の域外保全施設の飼育状況安定化に貢献した。



国内希少種を含む5タクサすべてからの採卵ができており、域外保全個体群の再建中である。無事、累代飼育を継続中である。



### \* ファウンダー確保・野生復帰事業

目的：試験的な野生復帰に参加（フチトリゲンゴロウ）  
生息地における生息状況調査（マルバネクワガタ類）  
ファウンダーの確保（マルバネクワガタ類）



### 成果

フチトリゲンゴロウは当館で飼育した20個体を野生復帰（再導入）試験に供出した。東海大学で繁殖させた20個体と合わせ計40個体を、石垣島の湿地に放虫した。

マルバネクワガタ類が分布する南西諸島の計7島にて生息状況調査を行った。

ヨナグニマルバネクワガタは飼育下で羽化した個体数が非常に少数だったため、野生復帰未実施。ただし、累代飼育♀と野外♂の組み合わせで採卵成功。ウケジママルバネクワガタ、オキナワマルバネクワガタは野外産ファウンダーから採卵成功した。